

今後の十勝愛育園の運営を どうするのか

芳 滝

仁 議員

問

十勝愛育園は、昭和45年に十勝管内の肢体不自由児通園施設として認可され現在に至っているが、老朽化や医療機関に通院する児童も増え、平成14年は33名、平成15年は22名、現在は11名で、幕別町からはその内2名と聞いている。

以前、町長は道の補助も減り運営が厳しいので、十勝の広域的な中で施設の運営が可能かどうか話し合いを進めるといつていたが、その結果どうなったのか伺う。

また、十勝愛育園の運営を適切な医療機関に任せる等の方法で民営化していく方向を考えるべきだと思う。その方が設備も充実し、通園児童もより良い療育を受けることができると思うがどうか。

町長 広域的な中での施設運営について、帯広・幕

別・芽室における1市2町での障害児の早期発見、早期療育の推進を目的とする「十勝中部地域療育推進協議会」や十勝管内の市町村で組織している「十勝地域療育推進協議会」において現状を説明しているが、通所者の多くが帯広市や音更町に限られることから、十勝圏としての広域的な運営について、遠距離にある他町村からの理解を得ることは困難だろうと考えている。

一方、障害が複数化してくると、どうしても常時お医者さんがいる、あるいは他の治療も可能な施設といったところにお母さん方が求めていくことを考えると、町立で管内を網羅した肢体不自由児の単独施設をこれからも継続していくことは難しい。

民営化については、確かに一つの方策とは思っているが、愛育園の設立当時と

は違った医療機関等における療育機能訓練体制の進展に伴い、高い専門性が求められる愛育園の役割を民間医療機関が担っている現状からすると、今後、通所児童の増加が見込めず、措置費等の財源確保が難しいことから困難ではないかと考えている。

十勝愛育園は、昨今の社会情勢の変化や地域医療技術の進展に伴い、その役割が大きく変わろうとしている転換期であることから、今後の基本的な考え方としては、十勝愛育園を廃止することも含めて、各関係者及び関係機関等の協議を進めていきたいと考えている。

白馬ヶ丘スキー場に代わる ソリすべり場の設置を

問

札内文京町西側の宅地開発に伴い、白馬ヶ丘スキー場が本年廃止になった。明野ヶ丘スキー場はリフトも設置され利用者数も増えているが、「ソリすべり場」が狭い。

白馬ヶ丘スキー場を利用していただいていた札内地域の人や幼稚園、保育園の保護者等からソリすべりをする広い場所が無くなり困るとの声があり、公園等で利用できる場所を町として用意できないか。

町長

昨年、明野ヶ丘スキー場に新しいリフトを設置し、このことに合わせ、グレンデのレイアウトを一部変更した。

変更内容は、初心者コース、北側グレンデを一般のスキーコースとソリコースに明確に分離し、この際、ソリコースを可能な限り広げるとともに、スキーコースとの間にネットフェンスを設置するなど、スキーヤーとの接触事故を防ぐ手立

てを講じて利用していただいている。

公園等での利用については、現在、札内地区に設置

している公園の状況からいくと、冬期間の公園の有効活用を図るため、いなほ公園西側の斜面地、札内北公園あるいは若草南公園にも築山などをつくって、一部ソリ遊びができるようになっている、いくつかの方々に

利用していただいているが、なかなか新たなコースを設けることは難しい状況にある。

当面は明野ヶ丘のスキー場を利用していただくが、皆さんの意見もいただきながら、もし代わるべき土地があれば、それに

応じた対応をしていきたい。



いなほ公園でソリすべりができるようにならないものだろうか